



「なまずナイト」& 私の観察記

◆学習会 「高齢者向けのサービスについて」

講師：吉川市長寿支援課
内容：介護保険制度や高齢福祉サービスの仕組みについて
8月10日(水)10:30~11:30
@おあしすセミナールーム3

◆議案を読む会

8月27日(土)9:15~11:30
@コミュニティスペースくるり

◆9月議会 9月2日(金)~9月26日(月)

傍聴しよう！
インターネット配信もあります。

◆公園まちかど座談会

& 9月議会報告会

10月5日(水)9:15~11:30
@関公園
(雨天時 コミュニティスペースくるり)
(コロナの状況で予定が変更する可能性もあります)
いずれもお気軽にお越しください。



読者のつばやき

抑止力で戦争は防げるのだろうか
抑止力は結局軍備増強である
日本が軍備を増強すれば、中国も増強する
つまり緊張は高まるし、歯止めはない
「軍備を増強して戦争を防ごう」
これって、正しいの？



◆皆様からのご意見・ご感想
ご入会希望等お問合せはこちら！
MAIL:yoshikawa.shimin.net@gmail.com
FAX : 048-983-1835

◆ご寄付のご協力もお願い致します！
ゆうちょ銀行 038 普通 7744921

5月7日、14日に「なまずナイト」(座学&見学会)を行いました。昨年、ナマズの産卵行動が見られた田んぼをお借りして、運が良ければ産卵が見られるかも?!というイベントでした。そして、その前後に私が観察した報告です。



4月28日 用水路に水が入って間もなく1匹のナマズを発見。
田んぼの中を泳ぎ回るも、用水路へ帰って行きました。相手がいなかったのかな?!

5月7日(ナイト①) 残念！ナマズは影もなし。

5月8日 休耕田で、とても珍しい昼間のナマズ産卵報告がありました。スマホの動画に映っていたナマズは、雌雄が絡まってトルネードのように泳ぎ回っていました。発見した人はラッキーでしたね。

5月11日 ナマズの稚魚を発見しました。1.5cmから2cm位。まるでオタマジャクシのようでしたが、捕まえて見ると、ヒゲやヒレがあって、まさしくナマズでした。いつの間に産卵したのでしょうか。もっと足繁く通えばよかったと、少し悔やまれました。

5月14日(ナイト②) 田んぼや用水路にいた銀ブナやナマズ稚魚、ホウネンエビ、タニンなどを水槽で観察してから田んぼへ。子どもたちはナマズやホウネンエビを手ですくって捕まえていました。産卵行動は見られませんでした。ナマズが田んぼで産卵する事が確かめられました。



田植えが行われる前に、ナマズの稚魚は姿を消して、今度はオタマジャクシの番でしょうか。
観察することで、いろいろな生物を育む田んぼが身近な物になり、大事にしていかなければと思えた観察会でした。(T)

よしかわ市民ネットワークは
岩田京子を市議会に送っています



- 市民ネットワークの3つのルール
① 任期は最長3期 12年で交代
② 選挙はカンパとボランティア
③ 議員報酬はみんなの活動費

YouTubeチャンネル始めました！
ぜひ登録してね！



HPはこちら→
yoshikawa-shimin-net.blogspot.com



第29号 2022年7月発行

田んぼの価値はお米をつくるだけじゃない
すべての稲作農家に支援を！



吉川の田んぼは9億円

田んぼは「お米をつくる」ことはもちろんですが、「地下水の涵養」「生き物の生息地」「美しい景観」「気候変動の緩和」など様々な価値があり、グリーンインフラとも言われ、注目が高まっています。

田んぼの洪水防止機能としての評価額は、5市1町で24億円と試算(獨協大学 大竹先生)。吉川市だけでも約9億円です。

今までは農家に担ってもらってきた営農を、今後は市民の宝として、支援することが求められます。

すべての稲作農家を応援する他自治体

埼玉県では下記グラフの自治体含め、田んぼの多い20超の自治体で、米価の下落、エネルギー・肥料の高騰等を受けて、すべての水稻農家を支援するために、下記のように「次期作支援」を行っています。コロナ対策のための臨時交付金の一部を活用しています。

吉川市の支援はチャレンジできる人へ

田んぼ面積が30%の吉川市での補助金の目的は、拡大・転換・改善をめざす取組み、また、チャレンジ精神をもち新たな取組みへの挑戦を支援することです。

- ①飼料用や加工用、輸出用等の主食用米以外の水稻に対する支援
②遊休地対策、農福連携、6次産業化、スマート農業など新たな取組みに対する支援

と、頑張れる人の支援になっています。農家の件数が595件中、①の支援は20件、②の支援は62件(重複あり)となっています。

市は「吉川市地域農業再生協議会」で主食用米以外の作付けを推進する方針を定め、関係者一丸となって取り組んでいる。今回の補助金の組み立ては様々な農家さんにお聞きし、皆さんの「一律や一過性の支援は解決に繋がらない」という意見を反映。主食用米への補助は過剰生産の適正化・米価格の安定に繋がらないと答弁。

農業は今、様々な困難だけでなく、気候変動等のリスクにもさらされています。元気をだして、営農を続けてもらえるように、さらに充実した支援策が必要ではないでしょうか。

各自治体における水稻農家への支援策

Table with 7 columns: 自治体, 田んぼの割合(耕地割合), 田んぼの面積, 支援事業, 対象, 補助内容, 支援総額(円), 募集時期. Rows include 吉川市, 加須市, 羽生市, 久喜市, 白岡市, 春日部市, 坂戸市, さいたま市.



岩田京子の連絡先
342-0058
埼玉県吉川市きよみ野3-17-23
090-1503-1115
gankyon7123f@yahoo.co.jp

議員連盟で「気候危機」「生物多様性」に取り組む

全国の地方自治体議員たちと関心ある課題について、一緒に勉強をしたり、啓発活動をしたり、各地域で一斉提案をしたり・・・なんてことをする議員連盟(議連)というものがあります。

様々な議員連盟がありますが、私は「気候危機」と「生物多様性」に関するグループでそれぞれ共同代表として活動をしています。私がなんで議員連盟に関わるかというところ、

- ① 先進的な自治体の政策を学んで、自分のまちの政策に活かしたい。
 - ② 自分のまちでは実現できない取り組みでも、他自治体で実現できれば、効果があるし、私自身に希望が持てる。
 - ③ 関心が同じ議員で意見交換することで元気がもらえて、「よし、もっとがんばるぞ!」と刺激になる。
- オンラインが進み、議連の活動も前より容易に

なりました。コロナの副産物です。

今、「気候危機」のグループは400人以上いますが、「生物多様性」はできたてホヤホヤで、30人ちょっとです。どちらも全国各地から集まって来ます。

議員って、良くも悪くも流行に敏感です。社会の感心が高まれば、「テーマとして取り上げなくちゃ」となります。だから、市民の方は声を上げ、行政や議員に声を届けることもとても大切です。

議連の活動は大変な部分もありますが、全ては「いのち」「未来」「子ども」のためです。

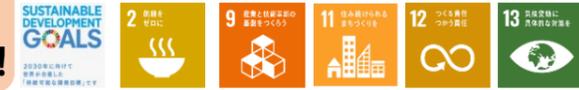


岩田京子の活動の記録

岩田京子ブログ
みどり色の地球



SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) に向かってGO!



田んぼが発電所!!

電気が吉川で作れたら!と夢を描いている私たちは、加須でソーラーシェアリングしている田んぼ(第2市民発電所:15aの田んぼに82Kw パネル)を見てきました。田んぼのソーラーシェアリングとは太陽光発電しながら稲作すること。「半農・半電」と話されていましたが、パネルの間から70%くらいの日が入るので、8割の収量は確保できているそうです。

ウクライナでの戦争により、改めて自前の食料やエネルギーの大切さを思い知らされますが、米離れが進む日本では米価は下がり続け、日用品がすべて値上がりする今、稲作農家はこのままでは営農できなくなってしまいます。そんな中、田んぼをソーラーシェアリングして売電出来ることは一石二鳥です。

25年保証の発電パネルの総工事費1600万円の半分は賛同者の出資や私費、半分は

銀行からの借り入れで、売電収益により10年で返済が可能だそうです。

太陽からの請求書は来ないよ!

海外から輸入することなく、原発のようなリスクもない太陽光発電。雪の日でも発電されているデータには驚きました。手続きなどハードルはあるものの、決して夢ではないと実感しました。(I)



傍聴席(インターネット中継)より

「有機農業耕作地拡大のための支援策の強化を求める意見書」を岩田議員が提出した。国は2050年には耕作地の25%を有機農地にすると決めたが、それは今の有機耕作地を50倍に増やすということだ。対策がないと到底達成できない。そこで、①アグロエコロジー(農業生態学)の研究・推進 ②種とり農家を増やす支援(有機種苗の自家増殖を種苗法の縛りから外す等) ③ゲノム編集種苗の表示の義務付けを提案したのだ。しかし、反対討論もなくあっさり否決された。何故なのだろう。

アグロエコロジーの定義についての質疑があった。アグロエコロジーは確かに耳慣れない言葉ではあるが、環境と調和した社会を作るための科学であり、国連を含め世界各国で、気候危機を含む環境問題、食料問題、健康問題等の解決策として、その推進・普及が共通課題となっている。実践されてきた農業経験を学問として確立することは重要だ。

農業は英語でアグリカルチャーだと中学校で習った。カルチャーには耕すとか文化という意味があり、まさに農業は文化であった。その後市民権を得たのがアグリビジネスで、稼げる農業がクローズアップされた。だが、地球環境に負荷をかけ続け、崖っぷちにいる今、エコロジー(生態学)の知見を反映した取り組みは必須だ。

既に梅雨も明け、連日の猛暑。農作物にどう影響するのだろう。農業はそれを生業とする人たちだけの問題ではなく、食べる人間すべての問題であることを再認識せざるを得ない。(I)

竜宮城のような小学校

埼玉県宮代町にテーマパークのような不思議な建物がある。それが町立笠原小学校です。校舎の中も普通の小学校とまるで違う。色鮮やかなコンクリートで、廊下は吹き抜けになっている。

教室はガラス張りで中が良くみえる。中には台所のような水場、「談話室」という小部屋がある。子供たちのおしゃべりが聞こえてくるようだ。

建物の柱には謎のひらがなが書いてある。「これは何だ」という色々な仕掛けがあって好奇心が刺激される。校舎の周りは自然豊かで、子ども達は校舎・校庭すべて裸足だ。

保護者の反応を校長先生に尋ねると、「この学校に入学させるために移住してくる人もいる」と言っていた。「なぜ学ぶ 何を学ぶ どう学ぶ どう生きる 考えてみよう自分たちで」というのが校歌だ。

宮代町には他にもユニークな施設・建造物がある。初代町長の「世界のどこにもないまちを創る」という思いから生まれたという。(M)



校舎 2階に池や畑



柱にひらがな



手すりにもそろばん



廊下左奥に小部屋



「生物多様性」を守るため、ナマズが産卵に来る田んぼを作りたい! ナマズは淡水の生態系の頂点であるからです。そんな想いで『なまず田んぼ米の会』を始めました。

6/11(土)の「田植え体験・生き物講座」には41名の参加を頂きました。淡水魚の研究家の地引汰一さんを講師に、アマガエル、ホウネンエビ等を捕まえたり、何故ナマズ稚魚はいなかったのか?お米を作る以外の田んぼの役割は?等を子どもたちと一緒に考えたりしました。

後半は、手植え体験&ちびっこ達の田植え機体験。その後は、畦道で「ナマズ弁当」を堪能しました。田植えは初めての体験という方も多く、喜んで頂けて嬉しかったです。

参加した方がそれぞれの感じ方で自然の豊かさを受け取り、自然を愛する気持ちが広がって、田んぼやそこに住む生き物を好きになってもらえてとても嬉しいです。協力して下さった農家さんたちにも感謝でいっぱいです。

【田んぼと生き物 観察会】8月20日(土) 9:00~10:30
【稲刈り体験・生き物講座】も企画しますので、ぜひご参加ください。
詳しくは namazutanbomai.no.kai@gmail.com

